



■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 ■バージョン: CASBEE横浜2017年版v.1.7

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	保土ヶ谷消防署	階数	地上3F
建設地	横浜市保土ヶ谷区神戸140番地の5	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域、第一種住居地域、準防火地域	平均居住人員	50人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年1月 竣工	評価の実施日	2020年1月30日
敷地面積	1,948 m ²	作成者	山田健斗
建築面積	1,156 m ²	確認日	2020年1月30日
延床面積	2,627 m ²	確認者	三岳大士



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.6

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (92 kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 77% (46 kg-CO₂/年・m²)

③上記+②以外の 77%

④上記+ 77%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 3.1

Q1 室内環境 (Q1のスコア= 2.9)

音環境	3.0
温熱環境	2.7
光・視環境	2.9
空気質環境	3.3

Q2 サービス性能 (Q2のスコア= 3.5)

機能性	3.1
耐用性・信頼性	4.2
対応性・更新性	3.4

Q3 室外環境 (敷地内) (Q3のスコア= 3.1)

生物環境	2.0
まちなみ・景観	4.0
地域性・アメニティ	3.0

LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー (LR1のスコア= 4.1)

建物外皮の熱負荷	5.0
自然エネルギー	3.0
設備システム効率化	4.5
効率的運用	3.0

LR2 資源・マテリアル (LR2のスコア= 3.5)

水資源保護	3.8
非再生材料の使用削減	3.7
汚染物質回避	3.0

LR3 敷地外環境 (LR3のスコア= 3.2)

地球温暖化への配慮	3.9
地域環境への配慮	3.0
周辺環境への配慮	2.7

3 設計上の配慮事項		その他
<p>総合</p> <p>横浜市消防本部の整備に伴い、また既存保土ヶ谷消防署の老朽化や庁舎の狭あい化を解消するための移転新築計画である。敷地北側は戸建てを中心とした住宅地と保育園、地域活動ホームがあり閑静な雰囲気があるが、変わって南東側は商業オフィスビル群、南西側は保土ヶ谷スポーツセンター、西側は保土ヶ谷小学校があり賑やかな雰囲気があり計画敷地を境にし雰囲気が変わる立地条件である。それぞれの特徴を鑑み計画した。</p>		
<p>Q1 室内環境</p> <p>事務室は南西・北東に開口を設け効率的な自然換気を可能とし、空調対象室の外壁ガラスはLow-E複層ガラス、また外壁面は現場発泡ウレタンを25mm吹き付ける事で熱負荷の低減を図っている。照明設備に関しては、居室は昼光を最大限活用できるように大きな開口部を設け、かつ、ブラインドと庇を併用することで日射及び glare に配慮し、照明器具も系列分けをして必要部分に必要なときだけ照明を点灯できる計画とした</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>施設の特性上、災害時も執務可能とする為、自家発電機を計画し、浸水対策を目的に止水板の計画や電気盤等の設備機器を1FLから1m以上、上に計画した。</p>	<p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>近隣の緑地のつながりに配慮し壁面緑化を計画している。消防署前面はホースタワーを計画し懸垂幕や緑化を計画している、敷地内に一般歩行者が利用可能なベンチを配置し、憩いの場を形成している</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>外壁面は発泡ウレタンを吹付け、窓についてはLow-E複層ガラスを照明のLED化により、建物の熱負荷を抑えた計画とした。屋上緑化、壁面緑化については雨水利用を計画し自然エネルギーを活用を計画している</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>雨水貯留槽を設置し、屋上緑化の灌水システムに利用。リサイクル材料の利用。節水器具の設置。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>建物を隣地から2mセットバックさせる事により、北側隣地へ与える影響を軽減した</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



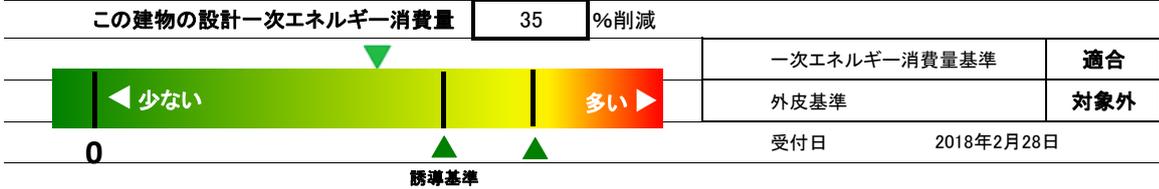
4 横浜市重点項目についての環境配慮概要 <非住宅>

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。

建物名称 **保土ヶ谷消防署**

建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving 重点項目への取組(5点満点) **【省エネルギー性能】 4**

■省エネルギー性能 (国土交通省告示に基づく表示)



■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)

E①屋根・壁面には断熱材、複層ガラスを採用

E③LED照明など、効率的な設備機器の採用

健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community 重点項目への取組(5点満点) **【快適・働きやすさ】 3**

■室内環境対策 (⑨温熱環境対策 ⑩光環境 ⑪空気質環境)

W⑪F☆☆☆☆の採用

■機能性対策 (⑫機能性 ⑬知的生産性向上の取組)

W⑫男女休憩室、食堂を計画

■室外環境(敷地内)対策 (⑭敷地内温熱環境の向上)

防災への配慮 (R) Resilience 重点項目への取組(5点満点) **【防災】 4**

■耐用性・信頼性 (⑮耐震・免震 ⑯部品・部材の耐用年数向上 ⑰信頼性)

R⑮建物用途係数を1.5としている

R⑯耐久性のある設備配管などや耐用年数の高い仕上材の使用

R⑰精密機械の地下配置をしない。通信機器は無停電電源装置を計画

地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape 重点項目への取組(5点満点) **【地域・まちづくり】 3**

■室外環境(敷地内)対策 (⑱生物環境 ⑲まちなみ・景観 ⑳地域性への配慮)

T⑱地域特性に配慮した建物配色や北側の壁面に壁面緑化や動物のパネルなどを設置する事で、周辺景観への配慮を行う

太陽光発電などの導入

環境配慮技術の導入

(太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)

エネルギーマネジメントシステム導入